



インターネットでの情報提供

提供予定日 11月5日

平成26年11月4日（火）県政記者クラブ・高山記者クラブ・
美濃加茂記者クラブ配布資料

担当課	担当係	担当者	電話番号
畜産研究所	飛騨牛研究部	高原・丸山	0577-68-2226

畜産研究所「ふれあい報告会」の開催について

畜産研究所は、県民に対する安全・安心・健康な畜産物の提供と県内畜産ブランド製品の振興及び県内畜産業の維持・発展を図るため、生産現場のニーズに即した研究開発及び技術支援に取り組んでいます。

このたび、肉用牛、酪農、養豚及び養鶏に関する研究成果を発表する「ふれあい報告会」を下記のとおり開催します。

また、報告会の開催に併せて、東京大学 まえだけいちろう 前多敬一郎 教授にご講演頂きます。

記

- 日 時 平成26年11月7日（金） 10:00～15:00
- 場 所 岐阜県可茂総合庁舎 大会議室
(美濃加茂市古井町下古井2610-1 電話0574-25-3111)
- 参加対象者 県農政関係課及び関係機関、市町村、農協関係者、
生産者 約160名
※事前申し込みは不要です。
- 日 程
10:00～10:10 あいさつ、日程説明
10:10～12:00 研究成果報告（※報告内容は裏面参照）
12:00～13:00 休憩
13:00～15:00 講演会
演題：繁殖機能を制御する脳のメカニズム：家畜の繁殖効率の向上に
向けたトランスレーショナルリサーチ
講師：東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻
獣医繁殖育種学研究室
前多 敬一郎 教授

基礎研究で得られた成果を、家畜の生産現場における繁殖効率向上
に繋げるための様々な取組みについて講演頂きます。

5 研究成果報告の内容

「黒毛和種肥育牛への飼料用米給与について」 飛驒牛研究部

飼料用米は、水田の有効活用や国産飼料として注目され生産拡大とその利用が推進されています。そこで、肥育牛への飼料用米の給与技術の確立を図るために、粉碎した粳米を50～60%配合した飼料の給与が肥育成績に及ぼす影響について検討しましたのでその結果を報告します。

「抗酸化物質の給与がホルスタイン初産牛の繁殖成績等に及ぼす影響について」 酪農研究部

乳牛の泌乳能力^{ひにゅう}は飛躍的に向上していますが、繁殖成績は年々低下しています。この原因の一つとして、泌乳量の増加に伴う酸化ストレスの増大があります。そこで、乳牛の分娩前後に給与する飼料に酸化ストレスを緩和する効果があると云われる物質（アスタキサンチン、セレン、ビタミン）を給与し、繁殖成績等に及ぼす影響について検討しましたので、その結果を報告します。

「豚への飼料用米給与による、低コストな環境負荷低減技術」 養豚・養鶏研究部

飼料用米は、トウモロコシと比べ、含まれる蛋白質が低く、繊維質が高い特徴があります。そこで、飼料用米を配合した低蛋白、高繊維質飼料を肥育豚に給与することで、豚の発育を維持しながら、豚が栄養として利用する蛋白質の利用効率を改善することで環境汚染の原因となる尿の窒素排出量を低減する技術を紹介します。

「卵用奥美濃古地鶏の産卵能力の推移について」 養豚・養鶏研究部

卵用奥美濃古地鶏は岐阜地鶏を活用した特産鶏として平成4年に畜産研究所が開発した鶏で、岐阜地鶏の雄とロトアイントレット種の雌を交配し作出しました。今回、これまで取り組んできた当該鶏の産卵能力や卵品質の向上のための改良の推移と現状を紹介します。